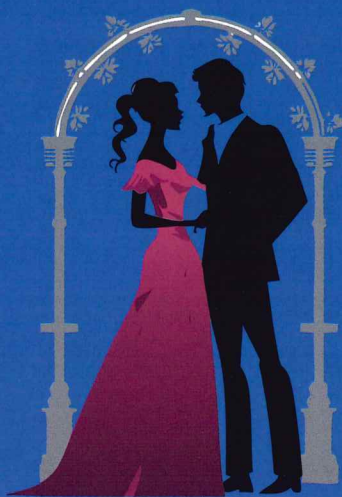


その恋は 世界中の誰もが知っているラブストーリーの中に消えた



ロミオとロザライン

原作 / 鴻上尚史

脚色・演出 / 片桐茂貴

(釧路演劇協議会会長・劇団東風代表)



令和7年(2025)

3月8日(土)・9日(日)

18:30開演 13:30開演

釧路市民文化会館小ホール

令和6年12月19日

前売チケット一斉発売

(生涯学習センター他)

釧路演劇協議会 創立50周年記念 市民参加合同公演

「会長、50周年は何をやりましょうか？」と事務局から問われ、さてどうしようかと迷いに迷いました。「古典をやったら？」とか「有名な作品がいい」とか「著名な作者のを」とみんなは勝手なことを言っていました。結果はボクが若い頃から馴染んでいる鴻上さんの『ロミオとロザライン』へと行き着きました。

シェイクスピアさんは今のボクの歳で亡くなったそうですが、我々釧路演劇協議会が歴史上最初に取り組んだ合同公演が『ロミオとジュリエット（1979年・文化会館開館記念）』でしたので、そのサイドストーリーにあたる本作は絶好であり、鴻上さんへお手紙出すと、ありがたいことに二つ返事で承諾を頂きました。

間違いなく『世界で最も有名な恋物語』である『ロミジュリ（と若者は略す）』は、わずか5日間の出来事です。そこに『ロザライン』という女性が登場します。名前だけです。ロミオはロザラインと付き合ってもらおうと舞踏会へ忍び込みますが、そこでジュリエットに一目惚れします。その後の話はご存知の通りですが、あれだけ好きだと言ったロザラインのことをジュリエットに出会った瞬間に忘れてしまうロミオ。ロザラインはどう思い、悲劇へと向かう物語を見たのか。そこに鴻上尚史ならではのエッセンスが入った作品です。

毎日、十代から二十代の若者に囲まれて稽古をしています。コロナでろくに芝居も出来なかった世代です。もちろんお馴染みの顔ぶれも出演しますが、とても新鮮で、濃密で、刺激的な時間を過ごしています。

演劇は常に「時代を写す鏡」でなければなりません。いまの時代を懸命に生きる釧路の若者たちが創る古典への誘い。そして知られざるラブストーリー『ロミロザ（と若者は略す）』

どうぞご期待ください。

片桐 茂貴

原作 / 鴻上 尚史
(論創社刊)

令和7年(2025)

脚色・演出 / 片桐 茂貴

3月8日(土)・9日(日)

18:30開演 13:30開演

釧路市民文化会館小ホール

釧路市治水町12-10 0154-24-5005

アクティング・コーチ / 清水 秀紀

プロデュース・コーチ / 林 淳子

テクニカル・コーチ / 荒井 健志

メイクアップ・コーチ / 片桐 敬子

ダンシング・コーチ / 立島 明菜

舞台監督 / 千葉 真子

作品監修 / 星 光二

開演 8土 9日

13:30

18:30

開場は開演の各30分前

チケット

前売一般 1,500円(当日1,800円)

前売学生 1,000円(当日1,300円)

ペアチケット 2,800円(前売のみ2名分)

※学生は大学生以下。小学生以下は無料。

主催/釧路演劇協議会 共催/釧路市教育委員会

後援/釧路市・北海道新聞釧路支社・釧路新聞社・一般財団法人くしろ知域文化財団

お問い合わせ / 事務局 釧路市新富町9-18(事務局長 林淳子) romiroza@tong-poo.org